

妻の両親が山形出身
なので、それを受け継ぎ、
山形風です。しょうゆベースで、
焼き餅が入った
芋煮のような感じ。
おいしいです^^
安野 広明

我が家では、年末にかけ、
もち米からお餅を作り、黒豆
もちを日置かけて作ります。
魚介系の出汁に
醤油ベースで
新年を迎えます。
石川 秀樹

我が家のお雑煮
我が家のものは至って
シンプルで、醤油ベース
の出汁でお餅を
煮て、お豆をのせ
て頂きます。
田原 智延

我が家のお雑煮のレシピ
は、もち・大根・にんじん
が入っており、年々の数
だけ黒まめを入れ
ます。年々黒まめ
が多くなります。
濱崎 俊明

甘くない ぜんざいです。
これと一緒に自家製の
梅しそ入った梅茶を飲ん
でいます。
子供の頃は
おいしかった。
中島 大吾

我が家のお雑煮は…
昆布だしのおまじし汁に丸もちと
入って煮たものに、黒豆の煮た物
を乗せて食べます。
シンプルイズベスト!!
何個食べたかは…
佐々木 康恵

実家のお雑煮は、シンプルに
白色・桃色の餅が入ってるだけ
でした。正月の朝は起きるのが
遅いので、大体餅は
原形をとどめてない
ことが多かったです。
原 光

私の実家のお雑煮は
味噌味の丸もちでした。
結婚してからはおすましの
お雑煮のため、
毎年少し物足りなく
感じています。
室田 直樹

しょうゆベースの出汁に
なります。具材は餅のみ
とかなりシンプルです。
近年は食べてい
ないですが、久しぶり
に食べたくなりました。
橋本 一輝

私が広島出身なため、我が
家のお雑煮は広島風です。
かきのすまし汁に焼いた
丸もち、かまぼこ
三つ葉が入ります。
母の味にはまだまだです
増子 枝里子

至ってシンプルなお雑煮です。
一番だしのおまじし汁に白丸餅
紅白の彩りに大根と金時人参を
添えます。我が家の
こだわりは元旦のお
雑煮を夫が作る事です。
石川 智恵美



1月3日、4年ぶり6回目の
コメディクラウンサーカスを開催し、
お陰様で、約500名にご来場いただきました！

1~3月の税務・お知らせ

- ・1月・・・源泉徴収票の交付、支払調書の提出
- ・2月・・・前年分贈与税の申告
- ・3月・・・前年分所得税の確定申告

お休みカレンダー

2024年 1月							2024年 2月							2024年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5					1	2	3						1	2
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23
28	29	30	31				25	26	27	28	29			24/31	25	26	27	28	29	30



こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。新年、明けましておめでとうございます。

今年のお正月は、4年ぶりに「コメディ・クラウン・サーカスin益田」を開催することができました。こちらのイベントは「10年・20年先を見据えた地域貢献活動」として弊社で主催し、今年で6回目となります。お陰様で、今回も大盛況に終えることができました。子供たちのみならず、ご両親や祖父母を含めた親子3世代での楽しい思い出になったのではないかと思います。今後も、弊社なりの地域貢献活動に取り組んで参る所存です。

さて、今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」です。陰陽五行説によると「甲」は草木の成長を表す意味があり、植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があります。そのため辰年は、昨年まで努力してきたことが実を結んで成就する年と言われるそうです。ご商売においても、昇る龍のようにチャンスをものにして行きたいですね。それでは2024年も、どうぞよろしくお願いします！



代表取締役
安野 広明



『ステージは変わらずとも、ベクトルの向きは変わる』

良書に出会うと、それだけで自分がレベルアップした気になるものです。まるで人生のステージが上がったかのような、成功者に近づけたかのような高揚感が得られます。

しかし、本を閉じてしばらくすると、幻想から目覚め、そこにはいつもと何ら変わらない日常が横たわっていることに気付くでしょう。つまり、ステージ（＝自分の立っている場所）は本を読む前と読んだ後とで1ミリも動いていないのです。仮面ライダーに変身できたと思ったら、人間のままだった・・・みたいな。そういう（残念な？）体験を何度か繰り返した後、「本（特にビジネス書や自己啓発書）を読んでも意味が無い」とか「自分は経験だけを頼りに生きていく」などと結論付けて、そもそも手に取らなくなる人もいらっしゃるようですが、それではあまりにもったいない・・・。

では、現実は何も変わらないにもかかわらず、本を読む理由はどこにあるのか？それは、ステージは変わらずとも、ベクトルの向きは変わるから。「ありたい未来の理想像が明確になる」でも「この人のようになりたいという憧れが手に入る」でもよいと思います。そうやってベクトルが1ミリでも変われば、その後の人生の行き先も変わるはずです。

例えるなら、弓道で矢を放つ際の角度が少しズレるイメージ。射場（矢を射る場所）ではほんの僅かなズレ（微差）であっても、的場（的がある場所）では大きなズレ（大差）となって現れますよね。射場からの的場までの「距離」を「時間の長さ」に置き換えて考えると、分かりやすいかもしれません。つまり、本を読んだだけではステージは変わらずとも、そこで軌道修正されることで、その後の行き先や将来のステージが変わるのです。おそらく、3年、5年、10年と時が経つほどに、大差になるでしょう。

「その時は分からなかったけど、〇年前の、あの本との出会いで人生が大きく変わった」とおっしゃる人は何人も知っていますし、私自身、しみじみとそう思える本が何冊もあります。したがって、一時点での成果が出ないからという理由で本を読まないというのは、チャンスを逃しているようなものです。

2024年は、今まで以上に本との出会いを求めてみるのもよいかもしれません。

第39期 経営計画発表会

昨年10月2日に行われた経営計画発表会及び基調講演の様子です。
第39期も、経営方針のもとに社員一丸となって頑張ります！



株式会社シェアードバリューコーポレーション
代表取締役 小林秀司氏による基調講演



代表の安野による経営計画発表



石川専務による社員代表の挨拶



県内のみならず東京からもご参加いただきました

本の紹介



『ザ・ゴール コミック版 3』

エリヤフ・ゴールドラット/原作
岸良 裕司/監修 青木 健生/脚色
蒼田山/漫画



室田 直樹

2002年にイスラエルの物理学者エリヤフ・ゴールドラット氏が出版したビジネス書籍のコミック版です。会社は昨今のデジタルトランスフォーメーションを中心に色々と変化を求められています。そんな変革を求められている中、今まで当たり前だったシステムのルールを採用していると折角のデジタル化を最大限に活用できていないのではないかと、既存のルールを見直すべき点はないかを説いている書籍になります。変化が大きいこの時代には一度読んでもらいたい書籍になります。



『「一瞬の人生」を後悔しないために』

地球が生まれてから現在までの46億年の歴史を、4.6kmの旅に例えて歩くワークがあるそうです。その場合、46億年＝4.6km、1億年＝100m、100万年＝1mとなります。
スタートからしばらくは（というかほとんどは）、生命らしきものとは出会えません。カンブリア爆発が起こるのがラスト500m、恐竜の誕生がラスト250m、ホモ・サピエンスの誕生がラスト20cm。なんと、人類の歴史は、地球4.6kmの旅の、最後の20cmしかありません。
地球規模で考えれば、そんなものなんですね。さらに言えば、人生100年だとしても、たったの0.1mm。いかに人生が一瞬なのかがよく分かります。

また、それとは別に「地球カレンダー」なるものがある、これは、地球誕生の瞬間から現在に至るまでの46億年の歴史を、1年365日のカレンダーで表したものです。それによると、恐竜の絶滅が「12月26日」、人類の誕生が「12月31日午後11時37分」、産業革命が「12月31日午後11時59分58秒」になるのだとか。産業革命から現在に至るまでの二百数十年が、地球カレンダー上ではたった2秒にしかならないのだから驚きです。
こうして悠久の歴史に意識を向けると、日常の悩みがいかにちっぽけなものかと思ひ知らされます。

ただしわれわれは、日々を慌ただしく過ごしている中で、今が永遠に続くかのような錯覚に陥りがち。そして惰性のまま、なんとなく1日を終えてしまうこともあるでしょう。休日にダラダラ過ごして「あ～、またやっちゃった・・」と後悔したことがあるのは、私だけではないはず（汗）。なぜか、人生が一瞬であることを忘れてしまうんですね。

なので、できるだけパッとイメージしやすい比喻を持っていくとよいと思います。それは例えば、上記のような「地球の歴史を歩くワーク」だったり、「地球カレンダー」だったり。いずれにしても、地球規模での視点は、世の中の見え方をガラリと変えてくれるでしょう。



『ストーリーには、表と裏がある』

かのウォルト・ディズニーの言葉に、「Story behind the Story」とあります。これは「表面に見えているストーリーではなく、その裏に脈々と流れているもう1つのストーリー、背景こそしっかり読み取りなさい」という意味だそうです。

ここでいう表のストーリーとは、経歴や出来事など、誰が見ても明らかなもの。これに対して裏のストーリーとは、表からは見えない感情の動きや文脈のことだと、私は理解しています。
お客様（ゲスト）の裏のストーリーに思いを馳せるというのは、ディズニーらしい言葉ですね。実際、ディズニーランドには、そこから生まれた感動エピソードがたくさんあります。会社経営においても、お客様や社員とのコミュニケーションの中で、常に意識したいところです。

そして、そうやって相手の背景に思いを馳せること以上に大切なのが、自分自身の裏のストーリーとして向き合うこと。当然ですが、私たちの感情や想いは、日々変化します。例えば、たった1年前の出来事であっても、感じ方は変わっているものです。

「あの頃は、上司や先輩からもらったアドバイスの意味（価値）が分からなかったけど、今では意味（価値）がよく分かる」なんてことは、誰にでもあるでしょう。人生を旅に見立てるならば、進めば進むほどに心象風景が違って見えるような感じです。

ただ、それが本来の姿であるにもかかわらず、日常業務に追われていると、いつの間にか感情が凝り固まり、やがて世界がモノクロに見え、せつかくの旅が楽しめなくなってしまうかもしれません。忙しさにかまけて思考停止すると、そうなりやすいですね。

したがって、自らの裏のストーリーを丁寧に紡いでいく、言い換えれば、日々立ち止まりながら、自らの細やかな感情の動きに意識を向けるのが望ましいと思っています。
良いことも大変なこともひっくるめて、心象風景の変化を楽しみながら、人生という旅路を歩んでいきたいものです。

『運動会で転倒するお父さん状態にならぬように』

例えば、走り高跳びの大会で2mの自己ベスト記録を出した選手がいたとして、その後の練習中に1m80や1m90ばかり跳んでいたら、次の大会では2mは跳べなくなるでしょう。ぶっつけ本番で自己ベストを跳ぶなんてことは難しいはずです。

このように、スポーツだと分かりやすいことでも、これが仕事となると分かりにくくなってしまうもの。

実際には、100の力がある人が90の力で仕事を続けていけば、どんどん力は失われていきます。「まだ本気出してないだけ」とか「自分はやる時にはやる」とか言いながら手を抜いていると、いざという時、自分でも驚くほど力が無くなっていることに気付かされるでしょう。

それはあたかも、子供の運動会でいいところを見せようと意気込むも、気持ちばかりが先行し、足の回転が追い付かず転倒するお父さんのような感じ。足に自信があった人ほど「こんなはずじゃない・・・」とショックを受けるでしょうね。「昔は足が速かったんだぞ」と過去の栄光を自慢したところで、子供は信じてくれないと思います（笑）。

このように、トレーニングをして負荷をかけ続けなければ、筋力も仕事の力も衰えていく訳ですが、では、この1週間の仕事を振り返った時に、（長時間残業という意味ではなく、あくまで時間の質において）100はもちろんのこと、110や120に挑戦できたでしょうか？

私自身、全然足りてないな～と反省しきりです。

おそらく負荷をかけなければ、年齢と共に100を維持するのすら難しくなるはず。「歳をとったから衰えるのは無理もない」という考えもあるのかもしれませんが、肉体的なものは仕方ないにしても、本来、仕事における力（精神力や人間力）は、いくつになっても成長できると私は信じていますし、現にそういう諸先輩方はたくさんいらっしゃいます。

1日のうちに「今、負荷がかかってるな～」と感じるような、110や120の力で仕事に取り組む時間を少しでも増やし、地道なトレーニングこそ積み重ねて行きたいものです。

セミナー報告

弊社代表の安野が昨年10月18日出雲市倫理法人会様にて「未来会計と経営計画で中小企業を元気に！ある日突然経営者になった2代目の奮闘」というテーマでセミナー講師をつとめました。



取り組み紹介

弊社の風除室に多肉植物の壁飾りが仲間入りしました♪
スタッフたちで和気あいあいとひとつずつ配置を考え、取り付けました(^^)／

